

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「徳性・知能・体力」ともにすぐれ、誠実、明朗で友愛と気力に満ちた人物の育成に努めるとともに、生徒一人ひとりの持てる力を最大限に伸ばし、地域に貢献する人材を育て、地域に信頼される学校づくりをめざす。

そのために、

- ①「確かな学力」への取り組みを通して、基礎的な力の定着と自ら学び考えることのできる応用力を養成する
- ②「豊かな心」を育む活動を通して、自尊感情を高め、他者を理解し共感できる力を涵養する
- ③「キャリア教育」を全ての教育活動の中で展開することを通して、明確な将来設計を描き、目標に向かって努力し続ける態度を育成する

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成と進路実現の支援

## (1) 授業力の向上

ア 授業に集中する環境づくりを進める。校内授業見学の充実を図ることにより、教員の授業力を高める

イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくりを進める

※学校教育自己診断生徒項目の学習・授業に関する項目の肯定的評価平均を、73% (28年度) ⇒ 80% (31年度)

## (2) カテゴリー制の充実

ア ステップアップコースの一層の充実に向けた「将来構想委員会」での検討結果を生かし、カテゴリー制全体の充実を図る

イ 進路意識の醸成と連動したカテゴリー選択指導を充実させる

※ステップアップコースの大学進学希望者中、より自己の進路実現に向けて一般入試まで努力する生徒の割合を、33% (28年度) ⇒ 40% (31年度)

## (3) キャリア教育の推進

ア 進路指導と人権教育をコラボレートした「総合的な学習の時間」を軸に、学年ごとの目標の具体化と検証を進め、3年間を見通した全ての教育活動の中でキャリア教育を展開する

イ カリキュラムの充実・改善と生徒への支援のより一層の充実を図るとともに、必要な教育環境の整備を進める

※学校教育自己診断生徒項目、保護者項目の進路指導に関する項目の肯定的評価平均を、生徒、保護者約83% (28年度) ⇒ ともに85% (31年度)

※学校教育自己診断教職員項目の進路「きめ細かい指導」・「組織連携」関係項目の肯定的評価平均を61% (28年度) ⇒ 70% (31年度)

## 2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進

## (1) 部活動、生徒会活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導

ア 部活動への加入を一層促進するとともに、生徒会主催のボランティア活動の充実を図るなど、生徒の主体性や協調性を育む

イ 遅刻を減らす取組み、着実な清掃活動の推進により、自分たちで規律ある生活を送り学校をよくし後輩に伝えていく意識を育てる

※1、2年生の部活動加入率60% (28年度9月) ⇒ 65% (31年度9月)。登校遅刻数1667 (28年度) ⇒ 1500以下 (31年度)

学校教育自己診断生徒項目「生徒会活動は活発である」の肯定的評価を、63% (28年度) ⇒ 70% (31年度)

生活指導に関する項目の肯定的評価を、73% (28年度) ⇒ 78% (31年度)

## (2) 教育相談体制の充実

ア 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくり、環境整備の充実を図る

※学校教育自己診断生徒項目の教育相談、支援に関する項目の肯定的評価平均を、77% (28年度) ⇒ 82% (31年度)

※学校教育自己診断保護者項目「気軽に相談できる」の肯定的評価平均を、77% (28年度) ⇒ 80%以上 (31年度)

## 3 学校の組織力向上をめざした取組み

## (1) 学校運営改善に向けた方策の具現化

ア 生徒情報を中心とする学校情報の共有と、学年・分掌等の組織間での円滑・有機的な連携を図る

イ 学校運営改善に向けたアクションプランの実効化を図る

※学校教育自己診断教職員項目の診断「組織連携・運営改善」に関する項目の肯定的評価平均を、61% (28年度) ⇒ 66% (31年度)

## (2) 経験年数の少ない教員のOJTの推進

ア 若手教育力育成の「さみどり塾」、研究授業の定例化や、「伝え合い・学び合い」の取組みをすすめ世代継承の活性化を図る

※学校教育自己診断教職員項目の診断「経験の少ない教職員育成の体制」に関する項目の肯定的評価を、50% (28年度) ⇒ 60% (31年度)

## (3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化

ア 部活動や体育祭、文化祭での参加・交流等による中高・地域連携、大学からの学生派遣(学習支援)等による高大連携を一層前進させる

イ ホームページの更新と、ホームページ等を通じた学校の取組みについての発信を強化する

※学校教育自己診断生徒項目の「授業や部活動などでの校外連携」項目の平均を、51% (28年度) ⇒ 60% (31年度)

同保護者・生徒両項目の「学校のホームページをよく見る」の肯定的評価を、生徒21%、保護者25% (28年度) ⇒ ともに40% (31年度)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>◎肯定的回答率の全平均 ※データ：28 年度 ⇒ 本年度 【生徒】 70.6% ⇒ 66.1% 【教員】 60.6% ⇒ 60.7% 【保護者】 76.9% ⇒ 68.1%</p> <p>◎項目をいくつかのカテゴリーにまとめた場合の傾向 【生徒】 ①学校全体についての意識：55% ⇒ 53%      ②学習・授業に関して：73% ⇒ 68% ③生活指導に関して：73% ⇒ 64%      ④進路指導に関して：82% ⇒ 77% ⑤教育相談、支援について：77% ⇒ 74%      ⑥人権教育・学習について：67% ⇒ 69% ⑦学校行事、生徒会活動：68% ⇒ 64%      ⑧施設・設備に関して：73% ⇒ 64%</p> <p>※生徒のカテゴリー別の結果について、今年度は⑥「人権教育・学習について」の数値が微増している以外、全体的に減少している。特に、③「生活指導に関して」、「⑧施設・設備に関して」の減少が5%を超えている。</p> <p>【保護者】 ①学校全体についての意識：78% ⇒ 65%      ②授業・評価に関して：68% ⇒ 51% ③生活指導に関して：84% ⇒ 69%      ④進路指導に関して：84% ⇒ 69% ⑤保護者連携、参加・相談：71% ⇒ 68%      ⑥人権教育、学習について：76% ⇒ 78% ⑦学校行事、生徒会活動：91% ⇒ 76%      ⑧施設・設備に関して：77% ⇒ 69% ⑨学校からの情報提供関連：70% ⇒ 63%      ⑩学校教育への参画関連：77% ⇒ 74%</p> <p>※保護者のカテゴリー別の結果について、今年度は生徒と同様に⑥「人権教育、学習について」が微増している以外、全体的に減少している。特に①「学校全体についての意識」、③「生活指導に関して」、④「進路指導に関して」、⑦「学校行事、生徒会活動」が10%以上減少している。</p> <p>【教職員】 ①教育計画・学校全体：56% ⇒ 57%      ②授業・評価に関して：65% ⇒ 61% ③生活指導に関して：63% ⇒ 60%      ④進路指導に関して：65% ⇒ 64% ⑤相談・支援体制：55% ⇒ 68%      ⑥人権教育、学習について：65% ⇒ 66% ⑦学校行事等特別活動：74% ⇒ 64%      ⑧施設・設備に関して：46% ⇒ 35% ⑨地域・保護者連携：71% ⇒ 79%      ⑩学校組織に関するもの：55% ⇒ 59% ⑪教育活動改善に関して：73% ⇒ 66%      ⑫保護者への情報提供等：78% ⇒ 80%</p> <p>※教職員のカテゴリー別の結果について、今年度は①「教育計画・学校全体」、⑤「相談・支援体制」⑥「人権教育、学習について」、⑨「地域・保護者連携」、⑩「学校組織に関するもの」、⑫「保護者への情報提供等」が増加している以外は減少している。特に⑧「施設・設備に関して」が10%以上減少している。</p> <p>◎課題 ・「学習・授業」に関して 生徒、保護者については「質問のしやすさ」「教え方の工夫」「わかりやすい授業」についての肯定率が下がっていることから、生徒とのコミュニケーションや生徒の困り感への対応を含め、更なる授業改善を進める必要がある。教職員については、「ICT機器の活用」や、84%という肯定率ながら「他の教員の授業見学の機会」が昨年度に比べ減少している。今後、ICT機器を活用しやすい環境整備や見学しやすい条件整備が一層必要であると考えられる。</p> <p>・「生活指導」に関して 生徒については、特に生活指導への理解について肯定率が下がっていることがあげられる。指導の主旨・目的・必要性を生徒、そして保護者にも理解を得られるよう工夫・改善が必要である。保護者については、「いじめ」に関する取組みについて、生徒の73%という肯定率に比べ、保護者の肯定率が減少している。実態把握については、アンケートの実施回数を増やしたり、1年生の実施時期を早めたりするなどの取組みを進めているが、その取組みについて理解を図るとともに、生徒の変化にも柔軟に対応できるよう、生徒の状況把握と指導の充実をより一層進める必要がある。</p> <p>・「進路指導」に関して 保護者の肯定率が10%減となっており、その減少が際立っている。生徒の希望する進路実現に向けた指導や支援の更なる充実を努めるとともに、進路情報の確実な伝達、説明会等への参加促進、手厚い指導により成果をあげていることなどについて、保護者の理解を得られるよう、トータルでの進路指導の充実が必要である。</p> <p>・「情報提供」に関して 保護者と教職員の受け止め方が違っている。学校行事、生活指導や進路指導、部活動や地域連携活動等において、新たな取組みや充実・改善を進めている。あわせて案内文書や資料の提供、「長尾高校NEWS」の近隣自治会回覧、学校ホームページでの「長尾高校ニュース」の定期配信等を通して情報提供にも努めているが、充分保護者に伝わっていないことが要因であると考えられる。今後も学校情報の確実な伝達、周知の徹底に取り組む必要がある。</p>	<p>&lt;第1回&gt; 5月12日(金) 「学校経営計画」の内容を受けて 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて 「主体的」について ・物怖じしない新入社員は多いが、主体性が見られない。あたえられることに慣れてしまっているからではないか。「主体的」で「有言実行」できる人材の育成を望む。</p> <p>2 ホームページ ・HPを充実させ、魅力あふれるHPに。</p> <p>3 交通安全指導 ・高校で交通安全指導に保護者がかかわるのは珍しく、非常によいシステムである。 ・登校の様子は交通マナー、挨拶等非常に良いが、下校時は交通マナーがあまりよくない。</p> <p>4 災害時の対策 ・今後、大きな地震の際の対応など検討しておく必要がある。 ・防災に関し、教員、生徒共に危機管理意識を高めなければならない。</p> <p>5 その他 ・生徒の力をどのように捉え、どのように伸ばし、評価するか、という視点からシラバスの充実を。</p> <p>&lt;第2回&gt; 10月27日(金) 1 当日実施した授業見学について ・先生と生徒の距離が近い。社会人になったことを想定し、コミュニケーションのあり方について検討が必要ではないか。 ・保健の授業は研究発表であったが、モチベーションをあげるのに良い教材である。</p> <p>2 「学校経営計画」の進捗状況をもとに ・進捗状況説明から、計画が実行されているのがわかった。 ・教員間で授業の見学をしあうのはとても良い。中学校での学びの見学も良いのでは。 ・学校に行けない生徒の対応について ・「長尾高校NEWS」など、学校の様子を地域に知らせるのはとても良い。これからも継続して欲しい。 ・昨年よりさらに遅刻が減っている。いいことである。 ・女子生徒のクラブ加入率が下がってきている。原因を究明し、実態に合った目標設定が必要ではないか。</p> <p>&lt;第3回&gt; 2月9日(金)実施 ・図書館の活用が減少している理由は何によるものか。 ・枚方市の小、中学校では司書が配置されている。開館と担当教員の常駐により図書館活動を活発に。 ・生活指導について、生徒の活躍の場を多くつくり伸ばす指導が必要ではないか。 ・施設、設備について肯定的意見の減少の要因を明らかにし、学校として可能な限りの対応を。 ・アンケート項目に自尊意識の内容を盛り込んだほうがよいのではないか。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (H28⇒H29)	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現の支援	<p>(1) 授業力の向上 ア 授業に集中する環境づくり イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくり ウ 校内授業見学週間の更なる充実</p> <p>(2) カテゴリー制の充実 ア ステップアップコースの検証と カテゴリー制全体の充実 (3) キャリア教育の推進 ア 年間目標の具体化と検証 イ カリキュラムの充実・改善 ウ 生徒への支援の体系化と環境整備</p>	<p>(1) ア 「ベル着」の定着に加え、机上整理等の授業規律の徹底を図る。 ・授業内外での学習方法等、学習スタイルの明確化 ・家庭学習の習慣化、自習室の活用促進等、生徒が自主的に取り組めるような仕掛けづくり イ 各教科・科目の学習の内容と方法の両面から生徒の学びを質的に高める。 ・視聴覚機器、図書館を活用した授業の実践 ウ 校内授業見学週間の活性化(見学しやすい条件整備等)と研究授業や研修の充実を図る。</p> <p>(2) ア カテゴリー制全体の充実・改善を図る。 ・ステップアップコースの効果検証(進学実績等) ・選択科目の見直し(教科横断的な基礎学力の充実方策等、生徒実態に即した新たな戦略) ・理系進学対応の強化</p> <p>(3) ア 生徒が身近な存在をモデルに将来を考えたり、作業を通して進路を考えたりできる教材の蓄積と活用を図る。 イ 進路実現に必要な力について議論を集約しカリキュラムに反映させる。 ウ ・進学講習、資格取得に向けた講習や面接指導等、支援体制の体系化・組織化 ・必要な教育環境整備の充実・改善</p>	<p>(1) アイ 学校教育自己診断(以下、「診断」)【生徒】学習・授業関係項目で肯定的評価(以下、「肯定」)の平均(73%⇒75%)、授業見学(1学期・2学期に実施)・面談の充実 イ 自己申告で全員が目標化、達成状況で80%以上、診断【生徒】「視聴覚機器を使う授業」(51%⇒55%)、診断【教職員】「図書館の活用」(58%⇒60%) ウ 診断【生徒】「他の先生が授業を見る」肯定(65%⇒70%) (2) ア 大学進学で一般入試まで(最後まで)努力する生徒(33%⇒40%) ・9月までに原案完成 (3) ア 診断【生徒】【保護者】進路関係項目肯定(生:82%⇒85%、保:84%⇒85%以上) イ (2) ア (9月までに原案完成) ウ (3) アに加え、診断【教職員】進路「きめ細やかな指導」「組織連携」関係項目肯定の平均(61%⇒65%)</p>	<p>(1) ア 授業の更なる改善と、生徒の学習習慣確立に向け検討を重ねた。「学習・指導関係」(73%⇒68%) (Δ) ・大学入試改革等を見据え、文章力等の向上を図るため30年度より「朝学」を導入。(○) ・30年度(新3年生は実質3月)から新たな学習支援ツールを導入。(○) イ 目標化・達成状況は6割程度。各教科でのアクティブラーニング実践を今後生かしていく。「視聴覚機器を使う授業」(51%⇒52%)、「図書館の活用」(58%⇒60%)、図書館体制の確立が課題。(Δ) ウ 教科・クラス等、幅広く見学できるよう条件整備が必要。「他の先生が授業を見る」肯定(65%⇒46%) (Δ) (2) ア 面談、講習や面接指導等で支援に努めたものの一般入試は減少した。(25%) (Δ) イ 30年度から新カリキュラムを実施。新たにコース委員会を発足し、企画・調整・検証を行う。(○) (3) ア 進路別説明会の充実、説明会実施時期の早期化、進路資料室等での教材活用を図った。(生:82%⇒77%、保:84%⇒73%) (Δ) イ ※(2)イを参照 (○) ウ 講習・面接指導は早朝・放課後・土日と丁寧実践。(61%⇒67%) (○)</p>
2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進	<p>(1) 部活動、生徒会活動の活性化、規律ある学校生活 ア 部活動、生徒会活動の活性化 イ 遅刻指導、清掃活動推進 (2) 教育相談体制の充実 ア 情報の共有や体制づくり及び環境整備の充実 イ 「いじめ防止」をはじめとする人権教育の充実 (3) 交通安全指導、防災教育の充実</p>	<p>(1) ア 部活動加入の促進を図る。 ・勧誘活動、部活動の発信力強化(学校HP等) ・図書委員活動の更なる充実 ・生徒会執行部が主催、活躍する行事の充実 イ 遅刻指導、美化活動の更なる充実を図る。 ・登校遅刻の更なる減少 ・保健委員活動の更なる活性化</p> <p>(2) ア 「生徒支援委員会」の効果的運用を軸に教育相談体制の充実・強化を図る。 ・運用サイクル定着と、運用のための研修実施(「高校生活支援カード」の活用、観察、ケース会議、カウンセリング、個別支援計画作成等) ・教育相談室の活用等、教育相談機能の充実 ・具体的学習支援方策の検討と実現(ユニバーサルデザインに基づく授業等)</p> <p>イ 人権教育の一層の充実を図る。 ・「いじめ防止委員会」の機能充実 ・いじめ防止アンケート等の活用と対応の充実</p> <p>(3) 交通安全指導、防災避難訓練をはじめとする防災教育の更なる充実を図る。</p>	<p>(1) ア 部活動加入率(60%⇒63%)、1年は65%以上を目標。HPの定期更新。診断【生徒】「生徒会活動は活発」肯定(63%⇒65%) イ 年間登校遅刻1600以下(H28:1667) 診断【教職員】清掃関係項目肯定(53%⇒60%) (2) ア 診断「相談・支援関係」項目肯定【生徒】75%以上、【教職員】55%⇒60%、【保護者】「気軽に先生に相談できる」肯定(77%⇒80%) イ ・診断【生徒】「いじめなどへの対応」肯定(75%⇒78%) ・診断【生徒・保護者】「人権尊重」項目肯定平均(72%⇒75%) (3) 診断【生徒】【保護者】「防災関係」項目肯定(生:77%⇒80%) 保:82%⇒85%)</p>	<p>(1) ア 加入率60.0%、1年:63.4%(10/25)。今後も加入促進に努める。(Δ) ・ブログの更新状況の明確化。更新情報の充実。(○) ・執行部生徒の目立たない努力を生かせるようにする。(63%⇒60%) (Δ) イ 遅刻件数30%減を達成(1667⇒1169)。(◎) ・平素の清掃活動を一層強化する。(53%⇒46%) (Δ) (2) ア SCとの連携が定着化した。【生徒】74%【教職員】55%⇒68%、【保護者】(77%⇒71%) (Δ) イ 年3回のアンケートに加え、1年は早期に実施。(75%⇒73%) (Δ) ・事案が無くとも月2回程度いじめ防止委員会と生徒支援委員会を併催とした。(72%⇒74%) (○) (3) 日々の指導、PTAとの安全指導、消防士による訓練等、啓発・指導を展開。(生:77%⇒76%) (保:82%⇒75%) (Δ)</p>
3 学校の組織力向上をめざした取組み	<p>(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化 ア 学校情報の共有と、組織間での円滑・有機的な連携の充実 イ 学校運営改善に向けたアクションプランの実効化 (2) 経験年数の少ない教員のOJT推進 ア 「さみどり塾」、研究授業の定例化 イ 世代継承の取組み (3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化 ア 高大連携 イ 中高・地域連携 ウ ホームページの更新、発信強化</p>	<p>(1) ア・全教職員による「報・連・相」の充実 ・指導方針、運営方針の明確化 ・各方針の学年、教科、分掌・委員会間での統一、全体での共通理解 ・個人情報保護の徹底 ・コンプライアンス全般に係る教職員の意識向上 イ 学校運営改善に向けたアクションプランの組織的な推進及び実効化を図る</p> <p>(2) ア・初任者中心に若手教員の年間通した授業力向上の取組み(研修、相互見学、示範授業等) ・世代継承の研修として「さみどり塾」の充実 イ 学校全体で育成を図るため、全教職員が「学ぶこと、伝えること」いずれかを目標化する。 (3) 市内小中学校、地域との連携を推進する。 ・生徒会、部活動、行事等での交流の充実 ・オープンキャンパスの充実、参加者の増大 ・広報ビデオや新リーフレット等の充実・作成 ア 高大連携の推進を図る。 (大学生の学習支援派遣、協働プロジェクト、留学生交流、研修依頼等) イ 中高・地域連携の推進を図る。 (インターンシップ受入、授業見学、部活動交流等) ウ 学校情報の発信強化を図る。 ・ホームページのコンテンツ充実、定期更新の定着 ・生徒・保護者への周知(配付物・メール等の活用)</p>	<p>(1) ア 新たな組織体制を始動(4月)体制機能化への見直し(9月まで) ・診断【保護者】【教職員】「個人情報の管理」肯定(保:60%⇒90%、教:34%⇒70%) イ 各アクションプランの進捗・達成状況により評価 アイ 診断【教職員】「組織連携・運営改善」関係項目肯定の平均(61%⇒65%)</p> <p>(2) アイ 診断【教職員】「経験少ない教職員を学校全体で育成する体制」肯定評価(50%⇒55%) イ 自己申告票で全員が目標化、達成状況で80%以上</p> <p>(3) アイ 連携関係の新規事業を少なくとも2つは行う ・学校説明会等への参加者数(508⇒600以上) ・診断【生徒】「授業、行事等を通して校外と交流機会ある」肯定(51%⇒56%) ウ 診断【生徒】【保護者】「学校のHPをよく見る」肯定(生:21%⇒30%、保:25%⇒35%)</p>	<p>(1) ア 首席等を中心とするミドルアップ・ダウンマネジメントが定着。「7つのチーム」による運営改善を推進中。(◎) ・分掌等の方針統一化が進む。(◎) ・「個人情報の管理」肯定(保:60%⇒81%、教:34%⇒78%) (Δ) イ 各プランを分掌・委員会、チームに吸収。今後、進捗状況を学校全体で共有し、更なる改善を図る。6から4分掌に分掌再編を実現。(◎) ・全体での共通理解を図り、より円滑な連携の実現を図る。(61%⇒60%) (Δ) (2) ア 初任者の研究授業・研究協議の充実が課題。(50%⇒50%) (Δ) ・初任研や2年目研修、「さみどり塾」、10年研を有機的に統合。有志による勉強会・先進校視察も実現。参加者も多く活発な意見交換があり、実践・導入につながる成果があった。(◎) イ 面談等を活用し目標化は達成している。達成状況は80%となった。(○) (3) アイ 新たに、宝塚大学・大阪成蹊大学・摂南大学との連携、長尾小学校「いきいき広場」の受入れ、長尾中学校への授業見学を実現。(◎) ・説明会等への参加者数(508⇒507) (Δ) ・「長尾高校NEWS」を長尾校区・西長尾小学校区自治会計589班に回覧。(◎) ・長尾駅伝、長尾カップ、交流試合、近隣商業施設での演奏等、交流機会は増えているが、今後より一層生徒・保護者に周知し理解を図る。(51%⇒50%) (Δ) ウ 新たに「長尾高校ニュース」を定期配信。更新履歴を明確化した。(○) ・校長ブログは月平均8.8回更新。今後も更新・充実、ホームページの周知に努める。(生:21%⇒21%、保:25%⇒23%) (Δ)</p>